学校法人 桑沢学園　桑沢デザイン研究所　東京都渋谷区北谷町32　電話 東京 463—2431

学校法人 桑沢学園

桑沢デザイン研究所 1969 〈夜間コース案内〉

桑沢デザイン研究所　II部　教育の趣旨と概要

II部は，社会人として昼間職業についている人，あるいは他の大学に在籍する人で，デザインを学ぼうとする意欲ある人々を対象に設けられている夜間のコースです。すでに15年の歴史をもっています。

大別して，基礎造形科とデザイン科があります。

基礎造形科は，既成の造形概念や技法にとらわれることなく，感動や発想，あるいは事物を正しく見，判断することの基礎を習得し，創造の芽を培うことを目的とします。授業は，造形・デザインの基礎につき感覚，技術のトレーニングと理論を中心にすすめられます。

この科は，1・はじめてデザインを学ぶ人　2・すでになんらかのデザイン業務についているが，きちんとした基礎勉強をしなかったため，たえず不安もしくは不足を感じている人　3・現在，デザイン業務についているが発想にゆきづまりを感じ，新鮮な感覚を求め柔軟なあたまのトレーニングを欲している人などに適しています。

デザイン科は，グラフィックデザイン，パッケージング，インテリアデザイン，家具デザイン，インダストリアルデザイン，ドレスデザインの専門コースにわかれています。

いずれのコースも，専門分野に欠くことのできない基礎理論および技法を学ぶことを徹底しておこなうとともに，現場のなかで当面しているデザインの諸問題に考察をくわえながら，それらに対処し，さらに広がりつつあるデザインの新しい職場においても，実務を遂行しうる能力や知識をやしなうことに目的をおいています。

この科は，なんらかのデザイン関係経験者および基礎造形科を修了した人を対象にしています。また基礎造形科をふくめて，会社より派遣されて学ぶ人が多いことも特色です。

夜間コースは，時間の制約，年限の制約，多種多様な学生層など，むずかしい条件や制約をはらんでいますが，当所のII部は，それらを考慮しつつ検討された特色ある授業内容と計画，優れた教授陣は他の追従をゆるさぬものといえましょう。

また社会環境や職種，年令や性別など異った人々が，デザインについて学ぼうという積極的な意志と情熱に強くむすばれ，昼間の激務から学生にかえって交流するとき，そこから生ずる有形無形の成果は，デザインと友情に多大のプラスとなっていることも大きな魅力といえましょう。

基礎造形科，デザイン科各コースとも，修業年限はそれぞれ1年間ですが学生の経験や目的の相違に応じて，2年ないし3年間にわたって履修し，専門の基礎を確実に身につけることのできる当所独自の教育システムは，デザイン界に多大の貢献をしています。

沿　革

創立にさきだつ10数年以前より，桑沢所長は自身のデザイン活動をとおして，デザイン各分野の総合的な専門教育，およびそれらの基礎教育の重要性を痛感していました。このような所長の理想と情熱に共感した現教授の方々の協力をえて，桑沢デザイン研究所が設立されました。

昭和29年4月――――――――
東京都港区青山に桑沢デザイン研究所設立<所長　桑沢洋子>
昭和32年12月――――――――
学校法人　桑沢学園　桑沢デザイン研究所となる
昭和33年4月――――――――
校舎を現在の渋谷区に新設し移転
昭和35年4月――――――――
第一次増築
昭和36年12月――――――――
第二次増築
昭和38年10月――――――――
桑沢学園　桑沢デザイン研究所　創立10周年記念行事
昭和41年4月――――――――
学校法人　桑沢学園≪東京造形大学≫開学　<学長　桑沢洋子>
昭和43年3月――――――――
第三次増築
昭和43年6月――――――――
創立15周年記念行事（記念講演会）

理事長・所長――――――桑沢洋子
常務理事・主事――――――高松大郎
常務理事・事務局長――――山本哲也

II部(夜間部)の構成

実線は学習経路を示しています。基礎造形科に入学し、2年目にデザイン科各コースに再入学する方法、また、直接デザイン科に入学（ただし、実務経験者に限る）する方法、一方、デザイン科→基礎造形科の経路をとることも可能です。
なお、破線は2コース併修可能範囲を示しており、結び合っているコースは併修できます。

概要

基礎造形科は，広範囲な造形活動における，豊かな造形感覚や構成力を体得することを目的とし，そのための授業科目として，構成，美術，基礎表現実習，理論科目の各教科が置かれています。

構成では，平面，立体，構造，色彩，材質，空間等，造形要素の学習をとおして，造形思考を拡充させ，視覚の法則や発想の方法を与えるとともに，形態表現の基礎的力を養います。また各種の用具や材料を体験することで個性の表現に導き，創造の萌芽を促します。美術では，絵画および彫塑を行ないますが，ここでは，自然の形の成り立ちをつぶさに見つめ，形の中にある力の相互関係や空間的広がりを正しく把握し，表現することによって，ものを見る確かな眼と描写力の訓練を行ないます。基礎表現実習は，選択必修となっている科目ですが，グラフィックデザイン，インテリアデザイン，インダストリアルデザイン，ドレスデザインの4つに分けられ，そのいずれかを選択することによって，それぞれの分野で必要とされる表現技法の初歩，およびデザインの概括的な知識について学びます。理論科目は，デザイン活動の広い基盤を理解するために，造形原論，近代美術史，造形心理学，造形社会学の4科目が置かれ，いずれも選択必修科目となっています。

授業は，毎日午後6時から9時まで行なわれ，内容，時間とも夜間の学生にとっては相当厳しいものですが，将来デザイナーを志す人はもちろん，現在デザインの仕事に就いている人にとっても，概念にとらわれない新鮮な感覚や，発想の基礎を身につけるには最適のクラスであるといえましょう。

■構成・色彩

相場秀夫　構成
郡山　正　構成
佐藤邦夫　色彩
下村千早　構成
須賀攸一　構成
戸村　浩　構造
羽原粛郎　構造
藤沢典明　構成
真鍋一男　構成
宮沢タイ子　構成
矢野目　鋼　構成

■絵画・彫塑

大成　浩　彫塑・絵画
尾崎ふさ　絵画
東　千賀　絵画

■造形理論

栄久庵祥二　造形社会学
松谷　彊　造形原論
三木多聞　近代美術史
村上一郎　造形心理学

■表現実習

大橋晃朗　製図（建築）
喜多智慧夫　製図（ID）
須賀攸一　レタリング
中島道子　コスチューム　ドローイング
原田　勤　レタリング

授業風景と課題作品

授業風景と課題作品

概要

Ⅱ部デザイン科は，すでにデザインの基礎を習得し，さらに専門家を志して，そのための技術と知識を深めることを望んでいる人，あるいは現在デザインの仕事に就いていて，その新たな展開を望む人を対象に設置されています。

デザインも，ブームを呼んだ過渡的段階を脱して，ようやく，産業界や生活の場に定着しようという時点にさしかかっています。またデザインの本質や，機能とか目的が，段々に明確にされてくるにつれて，デザイナーの能力に対する期待や要求も厳しくなってきています。

デザインは，現代文明を形成する責任の一端を担っています。それだけに，技術革新と相まって急速に進歩する産業界や，それとともに目まぐるしく変貌する社会や生活環境から受ける影響も著しく，新たに開かれた局面にも十分対処していかなければなりません。

従って，今後デザイナーが学ばなければならない技術や知識は，益々多岐にわたって，深さとともにその数も増えてくるでしょう。そして，それらを基礎としながら，既成の概念にとらわれずに発想し，思考する訓練を重ねることによって，自己の創造性を再開発していくことが大切です。

デザイン科は，グラフィックデザインⅠ，グラフィックデザインⅡ，パッケージング，インテリアデザイン，家具デザイン，インダストリアルデザイン，ドレスデザインの各コースに分れていますが，いずれも前述の考え方から，今後のデザインに不可欠な創造の能力を与えることに目標を置いています。また目的によっては，2つのコースを併修することもできます。

なおこの科は，デザインの実務経験をもっている人達，あるいは当研究所基礎造形科または他校においてデザインの基礎を学んだ人でなければ入学資格はありません。

デザイン科共通科目

現代デザイン論

現代デザインにかかわるアクチュアルなデザイン理論と産業社会の諸問題につき，多彩な講義が魅力ある講師によって展開されます。

Ⅱ部の時間的制約を考慮しながら，十分検討された授業計画は，特色あるものといえましょう。

講義内容

現代情報論・現代技術論・デザイン政策論・未来社会論・流通機構・商品化計画・流行と企業・写真とデザイン・服飾デザイン論・グラフィックデザイン論・環境デザイン論・インテリア文化史・ＩＤ概念と方法・ＩＤ技術論・ＩＤの諸問題・都市計画・視覚伝達論

講師

泉　真也・磯崎　新・内村喜之・大辻清司・鍵和田務・金子　至・楠原義一・桑沢洋子・河野五郎・香山健一・清水千之助・清家　清・谷　長二・畑　正夫・林　進・山本孝造

グラフィックデザインⅠ　コース

このコースでは，グラフィックデザインを学ぶうえに必要と考えられる基本的な諸問題について，それを理解するための能力とデザインの諸要素を視覚的に表現するための能力を育成することを目的として，実習と講義がおこなわれます。

将来，グラフィックデザイン関係の分野を志す人をはじめ，グラフィックデザインに限らず，視覚的な表現方法を用いる分野――例えば，パッケージデザイン，ディスプレイデザインなどを志す人，あるいは実務経験者についても，このコースでおこなう基本的な科目を学ぶことは有効であるといえましょう。

グラフィックデザインの基本的な学習には，文字的な表現方法と，絵画的な表現方法があります。

文字的な表現方法では，日本字や英字のレタリング，活字印刷などの可読性についての研究，活字や文字の組合わせによる視覚的な表現を研究します。一方，絵画的な表現方法としては，シンボル，マークなどの造形性についての考え方とその表現方法，描写力の訓練，色彩構成による感覚練習，印刷方式を応用した色彩の表現方法などがあります。

その他に印刷概論，デザイン論などの講義もおこなわれます。

このコースに入るには，Ⅱ部の基礎造形科でおこなっている造形に対する基本的な感覚訓練と，技術練習などの課程を修了するか，または他の学校などで，これらと同程度の訓練を受けていることを前提とします。

将来，グラフィックデザインを専門的におこないたい人は，このコースで基礎を履修したのち，グラフィックデザインⅡのコースを履修するとよいでしょう。

科目　レタリング・タイポグラフィ
　　シンボル
　　イラストレーション
　　印刷概論
　　現代デザイン論

講師　楠原義一
　　原田　勤
　　森　　啓
　　矢沢宏司
　　山口克己
　　山本隆太郎
　　吉川至郎　ほか

グラフィックデザインⅡ　コース

グラフィックデザインⅡのコースでは，主として，広告・編集・装幀関係のデザインを希望する人に適したコースといえましょう。このコースへの入学資格としては，Ⅱ部の基礎造形科と，グラフィックデザインⅠのコースを修了した程度の，デザインに関しての基本的な，造形感覚と表現技術を持っていることを前提とします。

授業は大別して，アドバタイジングデザインとエディトリアルデザインについておこなわれ，それぞれのデザインについての意味を正しく把握すると同時に，その表現能力を育成します。

アドバタイジングデザインは，現代社会のグラフィックデザインの中では，大きな比率を占めています。そのために，この種のデザインを志す人は，デザインについての正しい認識を持ち，広告について，的確なコミュニケーションをおこなうための鋭い感覚を持つことが必要です。この考え方にもとづき，授業は実習と講義を通してすすめられます。

ジンボル・トレードマーク・ロゴタイプなど，企業を想定した基本的なデザインから始まり，カタログ・雑誌広告・新聞広告・パッケージ・ポスターなどのデザインについて適切な指導がおこなわれます。

また，エディトリアルデザインでは，雑誌や単行本など書籍類に関しての編集方法，装幀や文章，写真などのレイアウトについて基本的知識を修める実習をおこない，タイポグラフィによる造形的問題なども研究します。こうしてエディトリアルデザインについての諸問題を，総合的に理解し，発展させていきます。

それぞれの実習と同時に，特別講義などによって理解を深めることも考慮されています。

科目　アドバタイジングデザイン
（シンボル・マーク・ロゴタイプ・雑誌，新聞広告・ポスターなど）
エディトリアルデザイン
（タイポグラフィ・装幀・レイアウトなど）
現代デザイン論

講師　岡田徹也
小林邦雄
楠原義一
羽原肅郎
森　啓　ほか

パッケージング　コース

このコースは，パッケージングに関係のある仕事を専門にしていきたい人や，現在パッケージングのデザイン，各種技術および関連する仕事にたずさわっている人を対象としています。

マーケティングの一環として，近年とくに重要視されてきたパッケージングは，日常生活に密着し，欠くことのできない重要なものとして，その位置を占めつつあります。

パッケージングは分類上，工業資材・機械器具・精密機器などの工業製品を輸送するに当っての保護や，保管を中心とした輸送パッケージと，広く消費者を対象として，大量に生産され，大量に販売される飲食品・薬品・化粧品・洗剤・衣料品・日用雑貨類などの物品の保全と，商品としての促進効果を合わせもっている販売パッケージとに分けて考えることができます。

このパッケージングコースでは，販売パッケージにおけるデザイン，および関連する各種の作業をすすめる上で必要とされるデザインの基礎はもちろん，内容物の明示と，販売を促進するために必要な，表面のデザイン演習を中心に授業がすすめられます。

一方，内容物を衝撃などの外的条件から保護すると同時に，消費者が使用するに当っての便利性も考慮する，いわゆる構造・機能についても，それに付随させ，発想から定着に至る演習もすすめます。また，表現上必要とされる材料技術，デザイン理論などについても，これらと平行させて行ない，要素的になることを避け，総合的かつ効果的な授業をすすめていきます。

限られた時間の中で，単なる知識としてではなく，機能面と造形面を関連させ，手を動かしつつ問題を把握，展開していきます。その中で解決点を見出し，豊かな発想と表現力を習得することを目的としています。なお，この方法により，現場での職業人の再学習にも適するように考慮されています。

科目　パッケージデザイン
パッケージング論
材料概論
現代デザイン論

講師　淡島雅吉
古口謙二
志津野知文
高橋満寿男
塚田　敢
灘本唯人
山本　茂
横山徳禎　ほか

インダストリアルデザイン　コース

このコースは，工業デザインや家具デザイン，その他立体デザインの業務にたずさわっている人を対象に，主としてデザインの表現力の習得を目的としたコースです。

工業デザインにおける表現技術の役割には，第1に発想を正しく形に表わし，デザインに定着させていく作業の効果を高めるものであること，第2に完成したデザインをいろいろな立場の人々に的確に伝達できるものであること，第3にデザイン管理が合理的におこなわれ，生産の能率化をはかることに役立つものであること，という3点が考えられます。そして，その技法や，伝達，保存のための手段として，製図，スケッチ，レンダリング，モデル，仕様書，報告書，管理法などをあげることができます。

これまでこうした技法や手段は，他分野のものをそのまま移殖し，それを固定的に踏襲している傾向がありましたが，今後，産業の中でのデザインの立場や役割からみれば，これは決して十分な方法とはいえません。

ここでは，主として製図とレンダリングを中心に授業をおこないますが，単にそれぞれの技法の上達を目指すというばかりでなく，前述した表現技術の役割を考え，それに即した技法の習得を目的としてすすめます。そして課題には，具体的ザデインをテーマにとりあげ，その発想から完成に至る各段階に応じて，造形，技術の両面にわたるデザインの内容を，客観的に正しく第三者に伝達するための技法を学ぶとともに，実務的検討や解決の方法を研究していきます。工業デザインを専門とする人はもちろん，パッケージングや家具デザインなどにたずさわる人にとっても，表現力を高めるのにふさわしいコースです。

なおこのコースに入るには，第三角法正投影図法および透視図法の理解と，描図する力が必要です。

科目　デザイン製図
　　レンダリング
　　デザイン
　　現代デザイン論

講師　魚住双全
　　内村喜之
　　小俣紀之
　　金子　至
　　喜多智慧夫
　　真水公雅

家具デザイン　コース

このコースは，現在家具関係の仕事をしている人や家具関係の仕事を専門にしていきたい人および基礎造形科を修了した人を対象としています。

このコースの目的は，建築よりもより人間とじかにふれあい，建築と人間活動との接触点におかれる道具である家具を，ひとつは人間の行動寸法，生産方式，経済性，市場性，空間とのあり方などからの追求と，ひとつはプロポーション，材料，構造，加工技術，形などの造形面からの追求とを関連させながら実習授業を通して，家具デザインの豊かな発想と的確な思考プロセスを把握させ，製品としての家具を創造することです。現在私達が身近かに接するハーマンミラー，ノル，アスコなどといった量産家具のデザインの水準の高さは，わが国のその分野における研究不足を感じさせます。ですからこのコースの指導の中心もマスプロダクションにおける家具デザインにおかれています。

科目は，家具デザインと，家具工作の2科目にわかれています。

家具デザインは，年間3～4課題により具体的なデザインを進めますが，人間と物とのかかわりあいといった広い範囲の問題を含めて研究し，その処理方法を考え，デザインを生産に移行させる技術を検討，追求し，個人の発想が的確に製品としての家具として完成させる過程を理解し，把握します。課題においては，個人が各自それぞれの発想と思考で進める場合と，共同で進める場合とがあり，それぞれに応じた指導が年間1人の教師によってなされます。

家具工作は，家具デザインにおける一般的知識に対する講義による授業で，内容は，家具構造，木材とその加工技術，金属とその加工技術，プラスチックスとその加工技術，籐，竹とその加工技術，塗装の6つの講義が，行なわれます。

科目　家具デザイン
　　家具工作
　　（家具構造・木材と加工技術・金属と加工技術・プラスチックスと加工技術・籐，竹と加工技術・塗装）
　　現代デザイン論

講師　小泉克也
　　白石勝彦
　　手塚敬三
　　山川　譲
　　山口勇次郎　ほか

インテリアデザイン　コース

このコースは，現在インテリア関係（建築，家具など）の実務についている人や，インテリア関係の専門的な実務経験が一年以上の人および基礎造形科の課程を修了した人を対象としています。

このコースの目的は，住宅やオフィスなど人間が生活する内部空間とその環境とのあり方を，広い視野からの実習授業をとおして把握し，創造することにあります。たとえば，人間の行動寸法と空間の必要量，使用上の諸条件と空間設定，使用者の心理などといった機能面からの追求と，空間のプロポーションや，空間を構成する材料，テクスチュア，色，光などといった造形面からの追求，および家具やその他の可動な設備，厨房や冷暖房，給排水，空調などの不動な設備についての知識とを関連させながら，発想から完成までを具体的なデザインをテーマとして研究します。

科目はインテリアデザインとインテリアエレメントの２科目にわかれています。

インテリアデザインは実習科目で年間２～３の課題によって授業が進められます。課題は具体的なインテリアデザインを各自がそれぞれの発想と思考により自主的に研究し，追求します。その実習指導は，各個人個人に応じた指導が年間を通して２人の教師によって行なわれます。指導においては，その課題に対する思考過程に重点がおかれます。課題の提出は各個人の能力に応じた表現方法がとられますが，客観的な的確な表現が求められます。

インテリアエレメントは，インテリアデザインの一般的知識に対する講義による授業で，その内容は，インテリアファブリック，インテリアエンジニアリング（設備，照明など）建築一般構造，ディスプレイの５講義がそれぞれ行なわれます。

科目　インテリアデザイン
　　インテリアエレメント
　　（家具概論・インテリア　ファブリック・インテリア　エンジニアリング・ディスプレイ・建築一般構造）
　　現代デザイン論

講師　稲田尚之
　　戎居研造
　　北村吉一
　　白石勝彦
　　高村英也

ドレスデザイン　コース

一般にドレスデザインといえば，個人を対象にデザインし，裁ったり，縫ったりする手仕事による一品製作のデザインを意味しますが，最近，既製服の使用が激増していることからも，量産のためのデザインを含めて考える必要があります。そしてそれは，服飾産業として，将来いっそう重要な意味と役割りをもつものと考えられます。

しかし，なにぶんにも量産デザインの歴史が浅いため，その教育システムについては確立の途上にあるというのが実情でしょう。当所のドレスデザイン教育は創立いらい，この問題にとり組んできました。

したがって，このコースは一品製作のデザインはもとより，量産デザインについても考慮されている点，一つの特色といえましょう。コースの対象は，基礎造形を修めた人や服飾関係の経験者に目標をおいています。

カリキュラムは，現在，服飾産業界にあって，デザインや企画，技術にたずさわっている仕事に必要なドレスデザインの諸要素を端的に凝集して組まれ，独特なデザイン実習と理論により授業がすすめられます。

教育目標は，短期間のなかで，デザインおよびドレスデザインの基本的な考え方を学び，基礎から応用面への表現実習をとおして，各自のデザイン感覚や発想力を高め，デザインにたいする専門的な認識が，実社会のなかで堅実に成長することを目指しています。

各専門分野の講師による企業論，服飾デザイン論，既製服論，ニットデザイン，流行の変遷などが専門講義として実習と平行しておこなわれます。

また衣服の構造理論，モデリング，コスチュームドローイングの基礎についても学びます。

また現代デザイン論は，ドレスデザインのみならず，広くデザイン各分野にわたり，産業社会と関連させながら講義が行なわれます。

科目　ドレスデザイン
　　コスチュームドローイング
　　衣服の構造とモデリング
　　デザイン論
　　（概論・流行論・服飾企業論・ニット企業論　ほか）
　　現代デザイン論

講師　川合　優　　桑沢洋子
　　根田みさ　　高松大郎
　　谷　長二　　塘　和夫
　　福村千英子　　前田晃子
　　宮内　裕　　諸岡美津子
　　矢崎光子　　横山雄一

Ⅰ部(昼間部)の概要——科・学年・専攻

Ⅰ部では，デザインの基礎から専門までの教育を，一貫した本校独自のシステムをもっておこなっています。

デザインの要素には，造形，技術，理論の3つがあります。しかし，これらを単に要素として個々別々に学ぶのではなく，常に相互のかかわりを確かめながら，段階的にその次元を高め，創造力をのばしていくことが，デザインを学ぶのにふさわしい姿であるといえましょう。

Ⅰ部には，リビングデザイン科とドレスデザイン科がおかれていますが，両科ともこの趣旨にもとずいて教科が組まれています。

リビングデザイン科は，ドレスデザインを除く，生産，環境，伝達に関する広範なデザイン諸分野の専門教育をおこなっています。1年では基礎課程として，どのデザイン分野にも共通する造形感覚や構成力，および表現力の訓練に重点がおかれています。2年および研究科では，別図に示すとおり学年ごとに各デザイン分野を選択・専攻し，専門家として必要な技術や理論を学びます。

ドレスデザイン科1年では，造形感覚の訓練と平行して，ドレスデザインの基礎技術を確実なものとして習得させます。2年および研究科では，それを応用技術へと発展させていくとともに，実際的な技術や理論を把握させ，優れた職能人の養成に努めています。

なお詳細については別冊案内書をご覧下さい。

■リビングデザイン科

■ドレスデザイン科

桑沢デザイン研究所および付近案内図

所在地＝東京都渋谷区北谷町32 電話・東京（03）463-2431(代)〈郵便番号 150〉

国電——原宿より徒歩 約6分または渋谷より徒歩 約8分

バス——渋谷駅より代々木スポーツセンター循環線（小廻り）乗車　岸記念体育館前下車，すぐわき，または渋谷駅↔中野駅，佼成会聖堂前，新宿駅西口，世田谷車庫　各線で渋谷区役所前（NHK放送センター前）下車，徒歩で約1分

桑沢デザイン研究所 1969
<夜間コース案内>

〈発　行〉
学校法人・桑沢学園
桑沢デザイン研究所
東京都渋谷区北谷町32

〈編　集〉
桑沢デザイン研究所1969 編集委員会

〈印　刷〉
株式会社　藤栄
東京都渋谷区神宮前6-33-9

8905×3T